

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和3年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2694000049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム京都洛西では、ご入居者様に自宅に居られた時と同じような環境で過ごしていただき 出来ることを妨げず、いつまでも行いたいことが出来るように支援しています。ホーム独自の理念として、「誰もが居心地の良い暖かいホームである」を掲げています。ご入居者様の生活を支えることを、第一に考えた上で支援する側と支援される側に分けるのではなく、ご入居者様と職員がお互いに助け合いながら日常を過ごすことでお互いに笑顔になれる、お互いに快い気持ちになれるとの思いを込めています。今年度は、コロナという事由があり活動に制限がりましたが、出来る範囲で自治会との連携を図り、地域の一員として取り組みに参加し、防災関係でも協力関係を築くことが出来ました。職員同士も大変仲が良く、助け合いながら、ご入居者様の事を第一に考え、入居者様の喜びを職員自身の喜びとして支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「今までの自宅での暮らし方を大切に」と理念に謳い利用者が日々自由に暮らせるよう支援しています。コロナ禍においても利用者が楽しみを持ちながら暮らせるようなことに取り組んでいます。広い庭にテーブルと椅子を置き流し素麺やバーベキュー、ビアガーデン、ハロウィンパーティー等イベント食を行ったり、花火や風船飛ばしゲーム等の他、いつもの食事やおやつを外で摂るなど変化のある日々が送れるよう支援しています。運営推進会議では防災について協議し、災害時の自治会への協力依頼やホームの訓練や地域の訓練へ相互に参加する他、災害時の備蓄や備品についても町内の学区詳細地図への掲載、AEDの設置についてもホーム入口に掲示すると共に回覧板で周知するなど災害時の協力体制を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて運営理念・ビジョンを唱和し、共有しています。	「誰もが居心地が良い温かいホームである」というホーム独自の理念を基にフロア毎に毎年度目標を掲げ年度末に職員間で話し合い、実践状況を確認しています。職員は利用者が自宅と同じような自由な暮らしができるよう支援しており、会議や朝礼時に振り返りを行い理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習を受け入れるなど地域との関わりを持っています。	地域との関わりを大切にしており運動会やコンサート等の行事に参加したり、秋祭り等には地域の方の参加を得て交流をしていましたがコロナ禍においては地域の清掃活動に参加しホーム周辺の道路の掃除をしたり、散歩時に近隣の方と挨拶を交わすなど少しでも関わりが持てるように努めています。また、地域に向けての介護相談についての案内を記載したポスターを貼り地域に発信しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪されたときや、問い合わせの電話、学生の受け入れ等 随時相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、社会福祉協議会、民生委員、地域包括、福祉施設等様々な方にご出席いただきホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげています。	会議は家族や自治会長、社会福祉協議会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しホームの現状報告や職員研修、行事報告、ホームの農園について等報告し、意見交換をしています。地域の情報を得て園芸に詳しい方を紹介してもらったり多くの意見をもらい運営に反映していましたが、コロナ禍においては書面での報告を行い開催としています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議後は、必ず 議事録を洛西支所に提出に行き、疑問点等は相談しています。	制度上や書類の手続き等で疑問があった時は窓口を訪れたり電話で聞き、アドバイスを受けています。感染症等の注意喚起が届いた場合はポスターを貼る等職員に周知するようにしています。コロナ禍においては消毒液等が配布されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や指導を行い スタッフに周知しています。	法人主催の全職員対象の研修を受け参加できない職員は資料を基に確認し理解を得ています。身体拘束適正委員会は各フロアから2名ずつ参加し3カ月に1回行い、全職員に議事録を回覧し運営推進会議で報告しています。玄関やフロア出入り口共開錠しており、希望があった場合は近くに散歩に出たり玄関先の椅子で外気浴をするなど気分転換を図ってもらっています。また不適切な対応があった場合は職員同士で注意したりカンファレンスで話し合うこともあります。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの中でスタッフ同士注意しあったり、社内研修・指導で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当されるご入居者様がおられない為、入社時に研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を読み合わせ、都度 質問があれば答え、ご家族様の理解・納得を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを実施し要望・意見に対して取り組みを行い運営に反映させています。	利用者からは食べたいもの等の要望があり献立等に反映しています。家族からはアンケートや面会時、電話等で聴いており月1回の手紙や面会時には利用者の日々の暮らしを詳しく伝えるようにしています意見を受け月に1回は工作や食事会をする等家族に来所してもらい一緒に過ごす機会を作っていましたが現在はコロナ禍で中止しています。満足度調査の結果については毎回家族に結果を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のケアの中での職員の意見やフロアごとのカンファレンス等で提案や意見を聞き、運営に反映させています。	フロア会議や全体会議、日々の業務の中で職員からの意見や提案を聴いており、会議に出られない職員は事前に書面や口頭にて意見を出しています。職員アンケートや年1回や随時の面談時にも聴いています。職員からの意見で残業が無くなるよう報告・連絡・相談を密に行い業務や体制の見直しをする等職員の意見をもとに改善に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰等 様々なコンテストを行い職員のモチベーションアップに繋がっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関西存続のホーム内で、各力量に合わせ計画を立て研修を行ったり、社内資料にて毎月 月度研修を実施したり外部の研修も参加を促している。様々な資格習得支援も行っていきます。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所への挨拶回りや、イベントへの参加などでネットワークを築いたり 推進委員会にも参加いただき交流し情報交換しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント等、希望や不安等を聞かせていただき 信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、ご入居者様と共にご家族様の不安や希望を出来るだけお伺いし、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と入居前に しっかりと話し合いを行い、ご希望に対してその方の為にならないと判断した場合は、相談し他サービスについても話し合いを行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かし、出来ないことのみお手伝いさせていただきようとしている。また、様々な事を教えて頂いたりして相互関係を構築しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けてほしいこと等があれば、ご家族様に相談させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話を、ご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしています。	コロナ禍以前は馴染みの方の面会があったり家族と自宅や親戚のところに行ったり、馴染みの店で食事をする等していました。現在は懐かしい場所にドライブをすることで今までの関係が継続できるよう支援しています。利用者の馴染みの人や場所については入居時や日々の会話の中で聴き入居者情報シートに記載し職員間で共有しています。	

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士で、助け合ったり(家事など)状況に応じてご入居者様同士が関わりあえるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡をとり、ホームのイベントなどに参加していただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、ご本人様の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用しています。	入居時の面談で自宅や施設等に出向き、本人や家族から生活歴やこれからの暮らしの意向、趣味、好みのも物等を聴きフェイスシートに記載し以前のケアマネジャーからの情報も得て思いの把握に努めています。入居後は会話の中で聴いたり、意思疎通の難しい方は家族から聴いたり表情や様子からも汲み取り職員の気づいたこと等介護記録や申し送りノート等に記載しケアカンファレンスで検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にアセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で 常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行い、職員間で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。	本人や家族の意向を基に作成した介護計画は初回は1ヵ月、その後は3ヵ月、6ヵ月で見直し、特に状況に変化がなければ1年毎の見直しをしています。6ヵ月毎にカンファレンスで話し合いモニタリングを行い、見直しの際は再アセスメントとサービス担当者会議を行い事前に聴いた家族の意向や必要に応じて主治医や看護師の意見を反映させ介護計画を作成しています。介護記録はプランの実施状況が分かるように記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成しています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことを、出来るだけ支援出来るよう取り組み、状況に応じてご家族様にも協力をお願いしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することが出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来ていただき、緊急時も24時間 医師の指示を受けることが出来ています。週1回、看護師が勤務し受診介助や医療連携を行っています。	入居時にかかりつけ医の継続について説明し殆どの方はホームの協力医に変更し週1回の往診を受けており、月1回病院から家族に書面にて結果を送付しています。体調不良時は週1回来訪の訪問看護師から医師に連絡し支持を仰いでいます。専門医への受診は家族が対応し、必要に応じて職員が対応することもあり、結果については書面や口頭にて共有しています。精神科については月1回の往診があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が、情報や往診内容を記録し スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に、病院関係者との情報交換や相談に努めています。緊急時は、往診医が病院への働きかけをしてくださっています。毎月、病院への挨拶まわりも行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約段階で、重度化や終末に向けた方針の話し合いを行っています。ホームとして、看取りに向けた話し合いを行っています。	入居時に看取り指針を基にホームでできることや医療行為が必要な場合は支援できない事を伝え、重度化した場合は主治医から家族に説明し看護師、職員の4者で話し合い方針を決めています。面会や泊りなどで家族と一緒に長く過ごしてもらったり、食べられるものを持ってきてもらうなど協力を得ながら支援をしています。職員は法人の看取り研修を受けたり、終了後はカンファレンスで振り返りをするなど学ぶ機会を作っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促しています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受け、全職員が緊急時の避難場所も把握しています。災害時の自治会との連携も取れています。	年2回昼夜想定で消防訓練を行い、通報や初期消火、避難誘導等利用者も一緒に行い地域の方の参加を得たり運営推進会議で案内や報告をし、協力体制について協議をすることもあります。地域の防災訓練に参加することもあり、飲料水や缶詰、乾燥食品、カセットコンロ、ランタン等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けを行っています。	法人の接遇マナー研修を年1回受講した職員が個々に説明したり全体に伝達するなど周知をしています。日々のケアの中では上から目線ではなく丁寧語を基本とし個々に合わせて対応し、トイレ誘導時の声かけは耳元で小声で言うようにしています。名前は苗字で呼び、同性介助にも配慮し、3か月に1回接遇チェックシートを用いながら振り返りを行いカンファレンスで話し合うこともあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、ご入居者様ご本人が行いたい事を実施出来るように、随時 声掛けなどの働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌をうたったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか?」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は、毎日身につけておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の食材を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどもして下さっています。おやつ作りなども一緒に行っています。	食事は法人のメニューをホーム独自でアレンジし利用者の好み等を聴きながら作っています。利用者に野菜の下搾え等できることに携わってもらい職員と談笑しながら一緒に食事を摂っています。鍋物をしたり寿司や出前を取ったり、白玉団子やぜんざい、プリン等の手作りおやつなども楽しんでいます。また畑で採れた多くの野菜が食卓を飾っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援しています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行ってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいています。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けを行い、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援を行っています。	全利用者がトイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表によりパターンを把握し個々に応じた声かけや誘導を行うことで失敗が減ったり、パッドの種類を変更する等自立に向かうよう支援しています。支援の方法や排泄用品についてはカンファレンスやその時々で話し合いを持ち、退院後においても速やかにもとの状態に戻るよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、ご入居者様によっては食後の運動や、そのご入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応しています。季節によっては、菖蒲湯や柚子湯等も楽しんでいただいています。	週2回のペースで入浴支援を行い夜間も19時半までであれば対応し回数を増やすことも可能です。好みで入浴剤を使用したり、菖蒲や柚子などの季節湯を楽しんだり、シャンプーやリンス、石鹸等好みのものを持参している利用者や職員との会話を楽しみながらゆっくりと入る方もいます。湯は個々に入れ替え、浴槽、床、椅子、洗面器等すべて洗浄し衛生面にも配慮しています。拒否があった場合は足浴や清拭をしたり日時や職員の変更等を行い無理のない入浴支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様に合わせて過ごしていただいております。居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲み物は午後から控えるようにしていただいております。就寝前には、ホットドリンクを飲んでいただいたり安眠にもつなげています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、ご入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、食事に関しても昔から好きだった物や広告を見て欲しい物などを購入したりと個別で楽しませています。		

愛の家グループホーム京都洛西(ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来るだけ、ご本人様の希望に添えるよう支援しています。散歩や買い物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	散歩や買い物、外食、季節毎の外出を楽しんでいましたが、コロナ禍においては外出を自粛し広い玄関先の庭を利用し散歩や外気浴、食事やお茶を楽しむなど等少しでも外気に触れる機会を作っています。また、ベランダに出て洗濯物を干したり、菜園の水やりや収穫をすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方や、お金を持っていないと不安と仰る方については、ご本人様で管理されています(ご家族様、了承済)。買い物に行くと、自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、かけていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出しています。リビングには、加湿器を設置し抗菌作用のあるソリューションウォーターを使用しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	共有空間には毎週生花を購入し利用者と一緒に活けたり、折り紙や貼り絵、行事の写真等を飾り温かい雰囲気を作っています。フロアの入口や廊下の奥にソファを置き思い思いの場所でごせるよう工夫をし、利用者の体感にも留意しながら1時間に1回は換気を行い、毎日可能な利用者と一緒に掃除を行い快適に過ごせるよう配慮しています。テーブル席については利用者の相性に応じて変更することもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは一人になれる場所が作りにくいですが、気の合ったご入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下奥にはソファを設置しており、一人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使い慣れた物や大切にされていた物(お仏壇やアルバムなど)を持ち込んでいただいております。自宅と同じような環境で暮らしていただけるようにしています。	入居時に馴染みの物を持参してもらおう伝え、タンスや椅子、テーブル、ミシン、仏壇等を持ち込んでおり、入居時に見せてもらった自宅の部屋も参考にしながら家族と配置しています。入居後は動線等を考慮し相談しながら変更することもあります。アルバムや寝具、趣味の本等そばに置きその人らしい居室を作っています。また、毎日日記を付ける方もおり今までの習慣を大切に支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行出来る、その日の状態を判断出来る方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方には、スタッフが日々の状態を観察しながらその都度声掛けを行い、自立した生活を送れるよう支援しています。		